



赤十字衛生検査技師会会誌

The Journal of Red Cross Medical Technologists

1973 第 6 号

(548)

目 次

〔巻頭言〕	
岐路に立つ赤十字衛生検査技師会	鈴木兼五郎…(1)
〔研究〕	
免疫学的妊娠診断薬 Direct Agglutination Pregnancy Test (DAP-test) の臨床的検討	田丸武夫他…(2)
Aldohexose-o-Toluidine 反応による血糖定量法の追試検討	出原圭子他…(6)
ヘモキット (日本ロシュ) の検討	堀切 浩他…(9)
コレステロール測定用試液 (ヤトロン) の検討について	館岡 均他…(12)
LDHB-Test (Wako) の半量化とその比較検討	沢石由美子他…(16)
骨髓穿刺液の組織固定液について	大角 寿…(19)
肝性脳症における三相波出現の一症例	窪田美良子…(22)
γ-E グロブリン測定における種々の知見 (第一報)	大川義栄他…(25)
日立 102型デジタル分光光度計の使用経験 (主として血糖の測定)	大川義栄他…(27)
妊娠尿中エストリオール値の随時尿に関する研究 (特に8時間尿値について)	鈴木兼五郎他…(30)
二峰性アルブミン血症の一家系	根本 一蔵他…(36)
〔医学システム論〕	
閉鎖回路と開放回路	堤 昭憲…(41)
〔私の工夫〕	宮脇 良樹…(44)
〔文献紹介〕	西岡 光夫…(44)
〔北から南から〕	
わが地、栗山の昨今	坂上 隆敏…(45)
“流水”	菅原 嵩…(46)
〔ひろば〕	
我が7年間の軌跡	近藤 友一…(47)
〔報告〕	
昭和47年度総会議事録要旨	瀬古 治良…(50)
東北ブロック会の結成について	根本 一蔵…(51)
第3回関東東京ブロック会に参加して	堀切 浩…(51)
役員名簿	(53)
会計報告	(54)
会 則	(55)
原稿募集	(57)
編集後記	(58)

赤十字衛生検査技師会

〔巻頭言〕

岐路に立つ赤十字衛生検査技師会

会長 鈴木兼五郎

第8回赤十字衛生検査技師研修会は年も押し詰まった12月15日・16日に開催され、恙無く終了し、私自身何となく肩の荷が下りて、ホットした気持ちであります。会長の大役を引受けてからの一年を振り返ってみますと、不馴れな私にとって今年はあまりにも、波乱が多過ぎたような気がします。

- 1) 顧問田中先生の退職にともなう事務局の分散。
- 2) 本社が研修会にたいして考え方、在り方の変更を求めてきたこと。
- 3) 心の支えになっていた前会長齋藤先生の退職

など、順を追って列挙しますと上記の通りです。いづれをとりましても会長に就任早々、こんなに早く思わぬ事態がくるとは想像もしておらず、一時は技師会がどうなつてゆくのか？このまま解散してしまうのではないかという危惧で一杯でした。幸にも都内近県の病産院の会員の方々の絶大なる御協力により、やつと事務局を分掌して立て直し、新事務局により研修会のプランをつくり、実際の行動に移つた矢先に研修会の路線の変更を求められました。

技術の向上に役立つものをと要望されても、研修会にくる百人を越す会員に実習は不可能であり、検査の内容も多種類にわたる為に、簡単に実施できず、実に平易な考え方ではありますが精度管理というものを選び、またその種目も各施設が参加できるというのがたてまえになっていますので、比較的どこの施設でもおこなっている種目を選びました。

ひるがえって考えてみますと、技師会は齋藤前会長を中心として、事務局のある中央病院が主力となつて運営されてきましたが、事務局が分散されて、その考え方の流れが変わりつつあります。いわば本社の研修会にたいする考え方の変更と共に、技師会は8年目にして、大きな転換期を迎えたわけであります。

本年はその第1歩としてとりあえず、事業方針の中に化学検査の精度管理をとりあげ、更に全国的な規模でおこなう本社主催の研修会の他に、地方ブロック会の強化充実を目指しております。

とくにここ数年の間に各施設の充実にもなつて、検査部も拡大され、従つて人員も増加し、人事、労務管理面において、即ち検査部の運営のみならず管理面にまで、技師長（課長、係長、主任）は考えなければならぬ時代にきています。この際、精度管理等の技術的な面を向上させる以前に、検査部の運営、管理という面が重要視されるわけであります。

換言すれば技術の向上は、しつかりとした検査部の運営と管理の上に立つていと云つても過言ではありません。

従つて今後の研修会の中にも、管理と運営を反映させたものを適時おりこむつもりであります。今回の研修会の様子を見てかなり活発な意見も出され、ますますその意を強くいたしました。

しかし、今回の研修会は演題のテーマがあまりにも大き過ぎて、焦点がしぼりにくく、時間不足が目立った事を深く反省します。

以上研修会ならびに総会において、説明のいたらなかせた点を補足して、会員の皆様に技師会および研修会の実状をよく理解していただきたいと思ひます。岐路に立つ技師会も序々にその方向づけを明確にし、より多くの会員に親しまれ、Now な現代感覚を持つ赤十字衛生検査技師会にしたいと考えております。

(47. 12. 17記)